

平成 30 年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第 34 回総会議事録

開催場所：仙台市戦災復興記念館 記念ホール

開催日時：平成 29 年 4 月 16 日(月) 13:00~13:45

総会進行：渡辺副幹事長 議事進行：八木支部長

壇 上：八木支部長、金子副支部長、事務局（瀬野幹事長、島本出納責任者）

参加者：80 名

1.開会

渡辺副幹事長による開会の挨拶、ならびに会場内での留意事項、本日の流れなどの事務連絡。

2.支部長挨拶

八木支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- ・総会への出席と東北支部事業への支援等に関して御礼を申し上げた。
- ・平成 28 年度の引き続き若手技術者の研究の場として「斜面変動研究の次世代コロキウム」を継続実施し、技術的な底上げを図っている。また、これまでの研究成果をまとめた書籍発刊について立ち上げる予定である。
- ・平成 29 年度から大きな災害の発生もなく平穏な 1 年であったが、今後とも災害発生時には支部として対応を図っていきたい。

3.議事

○第一号議案 平成 29 年度事業報告

- ・事務局より事業報告の説明(議案書 p1~3)
- ・ワーキンググループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」を計 5 回開催した。5 回目には外部講師を招いてミニシンポジウムの的に開催している。
- ・地すべり現地検討会は宮城県大崎市にて「鳴子ダム周辺の地すべり」における、危険度評価(AHP)を行い、判定結果について検討会を行った。
- ・支部だより第 28 号を平成 29 年 12 月に発刊した。今年度から同じ所属会社の会員にはまとめて発送することで経費の節減を図った。
- ・関連団体、地域貢献活動として、(一社)斜面防災対策技術協会への講師派遣(阿部真郎氏)と技術論文の寄稿(中臺直之氏)を行った。

※第一号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第二号議案 平成 28 年度収支決算報告及び監査報告

- ・事務局より収支決算報告内容についての説明(議案書 p4~5)
- ・本部仮払金は申請額(200,000 円)から前年度黒字額を差し引いた金額としている。→46,263 円
- ・技術講習会費(斜面変動コロキウム)に対する費用については、本部若手対策費を活用し全額充当したため決算額は 0 円となった。

収益 1,642,278 円 支出 1,516,509 円 差額 125,769 円(次期繰越)

次期繰越額 1,903,981 円

- 監事である三上登志男氏による監査報告(議案書 p6)

※第二号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第三号議案 平成 30 年度事業計画(案)

- 事務局より平成 30 年度事業計画(案)の説明(議案書 p7~9)
- 若手技術者育成と地すべり調査技術の伝承を目的にワークグループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」を継続して行っていく。今年度は随時参加者を公募し、より多くの技術者の参加を促していく。また、5 回目はミニシンポジウム形式を予定している。
- 地すべり現地検討会を 9 月 27 日~28 日に青森県中泊町「権現崎・下前地すべり」で実施する。テーマは「海岸侵食による地すべり活動 その対策と監視」として、活動中に地すべりと概成した地区の双方を検討する予定である。
- 社会貢献活動、会勢拡大活動、他学協会との連携を推進する。既に宮城県砂防ボランティア恭敬への講師派遣が決定している(5 月 16 日 池田一氏)。
- 支部日より第 29 号を平成 30 年 12 月に発行予定である。ホームページでの情報発信を推進するとともに、他委員会と連携し講師派遣などをとおして支部活動の宣伝活動を推進する。
- 東北支部がこれまで取り組んできた。地形判読による地すべり地形の把握と危険度評価に関する研究成果を、広く一般に周知し普及させる目的で、分かり易く「使ってもらえる」書籍を発刊する予定である。

※第三号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第四号議案 平成 30 年度収支予算(案)

- 事務局より収支予算(案)について、平成 29 年度収支決算及び実情に合わせた計画としている旨を説明した(議案書 p10~11)。
- 本部仮払金については次期繰越金 100 万円以下の支部を対象とするため、東北支部は該当しないことを説明した。
- 技術講習会費は昨年度に引き続き本部若手対策費を見込んでいるが、予算案では掛かる費用を計上している。
- 収支決算見込みは-258,950 円となる見込みである。

※第四号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第五号議案 平成30・31年度役員改選及び組織改編について

①役員改選(議案書 p12)

- ・支部運営委員会において以下の推薦を得たことを報告した。

支部長 大河原正文氏 (岩手大学工学部准教授)
副支部長 金子和亮氏 (日本工営(株) センナ痔始点副技師長)
幹事 三上登志男氏 ((株)復建技術コンサルタント技師長)
渋谷 保氏 (日特建設(株)東北支店技術部長)

- ・今期より官公庁の方の役員招聘は行わないものとした。

②運営委員・オブザーバー(議案書 p13~14)

- ・運営委員は原則として本部海尉で構成するものとし、支部事業に対する助言、支援及び支部事業に関する承認を行う。また、委員の個人及び企業要件を明確にした。
- ・平成29年度総会承認に基づき、オブザーバーは官公庁関係の担当職に委嘱するものとした。職責としては支部活動に対する助言者、コメンテーター的な支援、災害時等の調査協力や情報共有の窓口として、官側と支部の連携を図るものとした。また、将来的には個別の連携協定等の締結を視野に入れる。

③幹事会(議案書 p15)

※第五号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○その他(議案書 p16)

①「岩手宮城内陸地震10周年シンポジウム」について

- ・地震発生から10年を経過するにあたり、自然災害と折り合いを付けて生きていく日本を考える場として、斜面災害と地域の再生をテーマに、栗原市と連携してシンポジウムを開催する。
- ・期日は平成30年7月6日~7日とし、国内外からの参加を予定している。
- ・開催の詳細が決定次第、会員及び一般に広く参加を呼びかける予定である。

②災害協定について

- ・現在協定を締結している国交省東北地方整備局、(一社)斜面防災対策技術協会東北支部との定期的な連絡や情報交換を行っていく。
- ・協定は災害に限定せず、技術交流(研修への講師派遣、情報交換など)や防災訓練への参加についても模索していく。

※その他事項に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

4.報告事項

○事務局より以下についての報告があった(議案書 p17~18)。

- ・平成30年度通常総会及びシンポジウムの開催予定について
- ・第57回研究発表会及び現地見学会(新潟大会)の開催予定について
- ・支部開催事業について

- 支部協賛団体について((株)北杜地質センターが加入)

5.閉会

渡辺副幹事長が総会の閉会を告げ、シンポジウム及び意見交換会について説明した。



【支部長挨拶】



【総会会場風景】

【新役員挨拶】

左より金子副支部長、大河原支部長、三上監事、渋谷監事



公益社団法人 日本地すべり学会東北支部 平成 30 年度シンポジウム 「高精度地形データの地すべり調査での活用と方向性」

【開催概要】

開催概要を以下に示す。今年度は、例年に比べて参加者も多く、タイムリーで貴重な話題提供と、総合討論などでの活発な意見交換が行われた。

日時： 平成 30 年 4 月 16 日（月） 14:00～17:30

場所： 仙台市戦災復興記念館記念ホール

参加人数： 219 名

CPD： (公社)日本地すべり学会, 3.25 時間（認定番号：JLS048）

(一社)建設コンサルタンツ協会, 3.25 時間（認定番号：201803220001）

【趣旨】

20 世紀の世紀末、地形計測技術に革命が起こった。航空機搭載型レーザー地表計測システム（LiDAR：Light Detection and Ranging）が日本にも導入され航空測量各社で運用が始められた。以来、国土交通省による一級河川流域での LiDAR 計測が進められ、火山砂防の分野や地すべり対策分野においても高精度の地形計測が行われてきた。その結果、5m グリッドの地形情報が整備・無料提供され、GIS の活用で個人レベルでもさまざまなスケール、さまざまな表現法で地表形態を細密に表現出来るようになった。当然、地表の乱れを引き起こす地すべり現象の解明や対策に従事する本学会員にとって、これらのデータは現状把握あるいは異なる時期間での変位・移動過程までを知る強力な武器を得たことになる。

本シンポジウムでは、この地形計測技術のブレーク・スルーがこの 20 年間にいかなる成果をもたらし、今後どのように展開・発展するかについて議論していきたい。

【キーワード】

地すべり地形 LiDAR UAV DSM データ DEM データ 地形解析 地すべり調査

【講演目次】

○基調講演：「国土地理院の地形計測—これまでとこれから—」

宇根寛氏（国土地理院 地理地殻活動センター長）

○講演：「地形図革命をいかに生き残るか！」

八木浩司氏（山形大学 地域教育文化学部教授）

「航空レーザー測量を活用した斜面変動の調査と対策」

大粒来茂樹氏（国際航業株式会社 東北支社主任）

「UAV 空撮による高分解能 DSM データの地すべり調査での活用事例」

土佐信一氏（国土防災技術株式会社 技術本部 第二技術開発センター長）

○総合討論：司会(コーディネーター) 八木浩司氏 池田浩二氏

話題提供：「DEM データの活用事例」池田浩二氏（東北開発コンサルタント）

討論会では発表事例の技術的な課題や今後の利活用の可能性など多くの質問が出され、パネラーの方からは本音を含めた適切、的確な回答を頂き、盛況のうちに閉会した。また、今年度より(一社)建設コンサルタツツ協会のCPDを取得したことにより、一般参加者の申込みが多数あり、過去最大規模のシンポジウムとなった。

次回も同様にCPD取得を行う中で、募集のあり方などに若干の課題を残したことから、今後事務局を含めて検討していく予定である。



八木支部長の趣旨説明



宇根氏による基調講演



八木支部長による講演



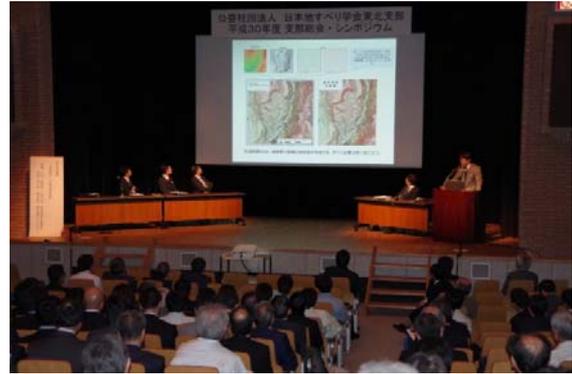
大粒来氏による講演



土佐氏による講演



池田氏による講演



総合討論



会場の様子

意見交換会

【開催概要】

場 所： グランテラス仙台国分町（仙台市青葉区国分町 2-2-2 TEL 022-262-7755）

日 時： 18:00～20:00

参加人数： 64 名



恒例のバンザイ！

意見交換会では八木支部長の挨拶に続いて、大河原新支部長の乾杯により交流会が始まり、会場各所でシンポジウムから続く技術討論や歓談の輪が広がり、大いに盛り上がった。最後には恒例となった檜垣先生の万歳により中締めとなった。